

フラサバソウ (フラサバ草)

名前の意味^{いみ}：長崎で、フランス人のサバエティエが発見し、フランス人がそのことを記録したので、二人の名前を^{ちぢ}縮めて、この名を付けた。

分類：双子葉類、ゴマノハグサ科、クワガタソウ属

好きな場所：日当たりのよい道ばた

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：ヨーロッパ

特徴：対生のぎざぎざの丸い葉、淡い空色

の花、ハート型の実

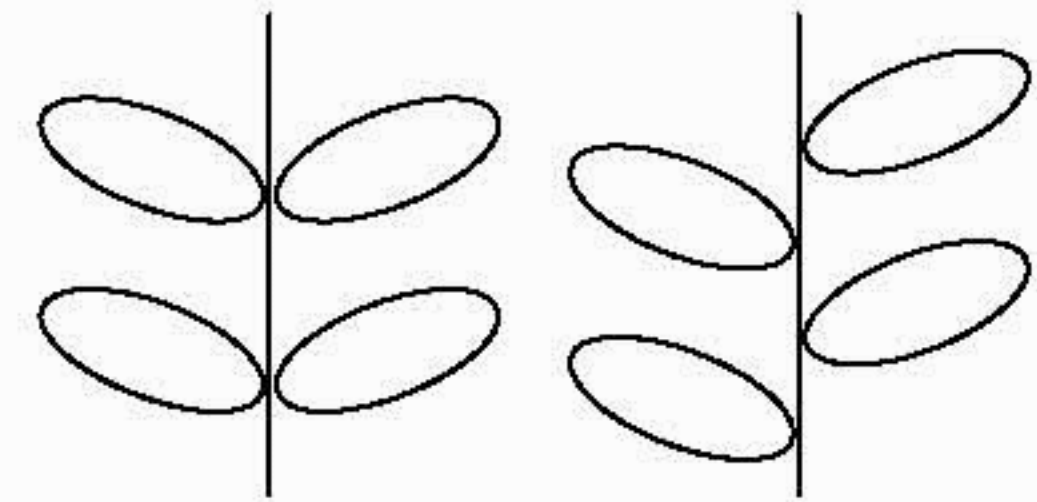
種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数^{ごうべん}：合弁、4裂^{れつ}

花の時期：4—5月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：オオイヌノフグリとは、花が少し小さいこと、葉のぎざぎざが大きくて、少ないことで区別できる。タチイヌノフグリとは、^{くき}茎の下部が斜めに立ち上がる^{なな}ことで区別できる。



たいせい
対生

ごせい
互生

見つけやすさ ★★★★★

見分けやすさ ★★★★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)